NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク

尾瀬ネットワーク通信

Vol.20. No.4　2018 年 2 月

――――――――目　次――――――――

リーフレット「尾瀬の自然」の思い・・・・・1.2
豊かな尾瀬の自然を後世に伝えるために・・3
笠ヶ岳植生調査報告・・・・・・・・・4.5
外来植物調査報告・・・・・・・・・・6.7
事務局だより・・・・・・・・・・・・・7.8

リーフレット「尾瀬の自然」の思い出

理事長　磯部　義孝

尾瀬の現地活動の小道具に「尾瀬の自然」リーフレットがあります。何気なくハイカー一人ひとりに配り、尾瀬の自然保護の話や植物の開花状況、木道での注意や啓発に欠かせないグッズです。このリーフレットの作成にあたっては隠れた苦労や涙もありました。

初版の発行は 1997 年 7 月です。作成に当たっては 1996 年 12 月に解散した「尾瀬の自然を守る会」の当時のリーフレットを参考にしました。裏面の＜尾瀬に咲く花＞の植物画は、当会指導員の坂本敏子さんのスケッチ画です。表紙の「おこじょ」始め、当会のシンボルマーク「オゼコウホネ」のピンバッジも同女史のデザインです。

リーフレット作成費用は、**（株）西原衛生工業所様と（株）西原環境衛生研究所様**のご支援をいただきました。作成後に軽微な間違えをハイカーより指摘され修正する場面もありました。第 2 版は全国に共済事業の拠点を置く**全労済様**（全国労働者共済生活協同組合連合会）の周年事業の一環としてご支援をいただきました。初版では至仏山東面登山道が閉鎖時期であり、記載がなかったですが、1997 年 8 月より登山道の供用（登り一方通行）開始がなされたため、この第 2 版より点線で登山道を表示しました。

現在活用中のリーフレット

第 3 版は当会予算で作成しましたが、**仙台コカコーラボトリング（株）様**のご支援でアイドリング・ストップのステッカーを作成、リーフレットと併せて配布をした時期でした。第 4 版は**（社）日本旅行業協会様**の「平成 16 年度 JATA 環境基金-地球にやさしい市民活動支援助成事業」の一環でご支援をいただきました。当時は同協会の尾瀬ツアーが盛んで、当会からも多くの指導員を尾瀬ガイドとして派遣していました。私自身も参加したくさんの楽しい思い出があります。

版No	ご支援いただいた方々
1	（株）西原衛生工業所様
	（株）西原環境衛生研究所様
2	全労済様（全国労働者共済生活協同組合連合会）
3	仙台コカコーラボトリング(株）様（ステッカー）
4	（社）日本旅行業協会様
5	（株）申江貿易様
6	（公財）緑の地球防衛基金様
7	（公財）緑の地球防衛基金様
8	（公財）緑の地球防衛基金様

第 5 版は当会の財政難の時期であり、予算作成に難儀をしておりました。見かねた当時の理事長である高橋氏のご厚意で、**（株）申江貿易様**（ご子息の会社）からご支援いただき難をしのぎました。企業様からのご寄付は控除されると思っておりましたが、認定 NPO でないため控除できず大変なご迷惑をおかけした経緯もありました。

またこの時期（2007 年）から尾瀬国立公園として名称が変更されたため、リーフレット裏面の植物

画を縮小し、新たに編入された会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山を記載しました。第 6、7 版は**公益財団法人緑の地球防衛基金様**の助成事業、「地球にやさしいカード」の（株）セディナ様のご支援で作成をしています。表紙にはホームページの紹介や、地図上への参考タイム、登山道の変更、事務局の移転などメンテナンスを行いました。今年は第 8 版を作成予定のため、内容を再度吟味しています。このリーフレット作成にあたり長きにわたり多大なご支援をいただきました企業、団体、個人の皆さまに厚く御礼申し上げます。

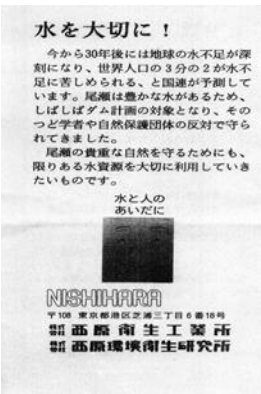
最後にリーフレットに係る「ちょっといい話」をします。私たちボランティア団体は貧乏団体のため、「ご家族で一部、ご利用ください」などと話ながらリーフレットをお渡ししていたときもありました。あるハイカーに配布した際に、「昨年いただいたものを、今日持参しましたから大丈夫ですよ」との言葉には感動しました。廃棄する人が多いはずなのに、大切に保管し持参され「地図が大変見やすい」などとうれしくなる会話もできました。

今後ともリーフレットの内容充実をしつつ尾瀬の自然保護を訴えて参ります。

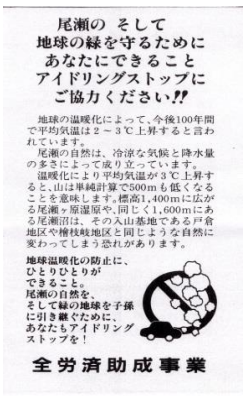
■ご支援いただいたリーフレット

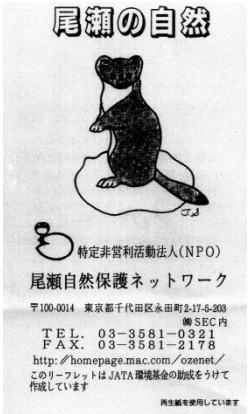
（紙面の都合上縮小しています）

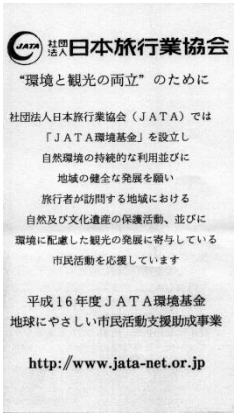
第 1 版：（株）西原衛生工業所様
（株）西原環境衛生研究所様



第 2 版：全労済様

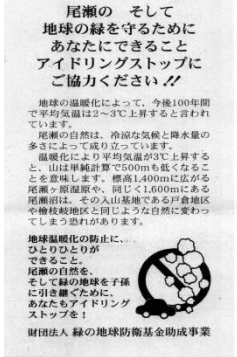






第 4 版：（社）日本旅行業協会様

第 5 版：（株）申江貿易様



第 6/7 版：公財）緑の地球防衛基金様

豊かな尾瀬の自然を後世に伝えるために

（見学/報告者　大山昌克）

2018 年 1 月下旬に群馬県立自然史博物館を訪問しましたので、ご報告します。

群馬県立自然史博物館主催の特別展『ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017』が開かれました。当会はポスターセッションに参加の機会が与えられたため、尾瀬の保護保全活動の取り組みを広く一般にご紹介しました。それは解説文とともに写真などを用いて分かり易く説明した大ポスターを展示するものです。この報告会は 2018/1/13～2/18 の約 1 ヶ月間にわたり、多くの見学者が来訪されます。

展示名は「豊かな尾瀬の自然を後世に伝えるために」です。群馬側担当の小鮒理事による企画、制作のもと、ロングランの展示を許され、尾瀬のかかえる問題点を広く共有してもらうことを目的として実施しました。

【当会活動の内容紹介】（紙面の都合上、一部のみ抜粋）

―展示写真や解説文の抜書き―

① **会の成り立ちと目的（略）**

② **主な活動**－入山指導とバス添乗解説

御池ロッジ、鳩待峠周辺でリーフレット配布をしながら入山指導を実施。最新の尾瀬情報を伝えつつ自然保護や安全面について伝える。バス添乗により自然保護の重要性を解説。

③ **尾瀬の「負の遺産」への対応**（過去のゴミ投棄問題）

尾瀬には、負の遺産として過去に捨てられた膨大な空き瓶や空き缶などがゴミ問題として残されている。尾瀬沼東岸で手作業によるゴミ拾いを実施。

④移入植物の除去作業

侵略的外来種であるオランダガラシの繁殖調査を行い、白砂湿原にて抜き取り作業を実施。2011/10/8 作業では 1 回で 8.3Kg 除去。

⑤至仏山登山道のトイレ問題調査と行政への提言と連携（平成 26 年より調査）

鳩待峠から至仏山往復約 7 時間以上にわたりトイレ設備がない。山頂付近（東面森林限界付近・山頂部岩陰、小至仏山ハイマツ内、笠ヶ岳分岐付近など）の汚染が問題となっている。携帯トイレの利用を呼び掛けつつ、アンケート調査などを通じ、関係方面への提言と連携を深めている。

⑥至仏山登山道の現状調査と行政への提言

至仏山南面登山道調査

（平成 24 年から 3 ヶ年）

（解説文略）

⑦地球温暖化の影響調査

1.標高 2000mの笠ヶ岳の高山植物分布調査。

2.キリンテ～大津岐峠間登山道に分布するツバメオモト分布状況調査。（3 ヶ年以上の継続調査実施中）

⑧尾瀬外来植物

外来植物の侵入状況や多様性の宝庫である笠ヶ岳雪田植生など、多岐にわたるポスターセッションになっています。

機会がありましたら、是非ご覧ください。

■笠ヶ岳植生調査-＜サマリー編＞

（2010 年～2017 年調査-中間報告）

群馬側担当理事　小鮒　守
理事　大山昌克

【定点調査の概要】

① 定点調査は 2010 年 9 月開始であり、2011/8、2013/8、2015/7, 2017/8 の計 5 回、延べ 8 年目となる調査。
（7 月調査 1 回、8 月は 3 回、9 月は 1 回）

② 調査ポイントは 2 か所。小笠南面（標高 1950 m）、笠ヶ岳東肩（標高 2000m）。1 平方m の枠取り法（コドラート法＝方形区調査）にて植生種の確認および数量把握を行います。

③ 調査参加者は､5 回/延べ 30 名の当会会員です。

【調査ポイントの地形】

笠ヶ岳（標高 2057m）北緯：36 度 52 分 24 秒/東経：139 度 9 分 12 秒の位置にあり、調査ポイントの笠ヶ岳東肩（標高 2000m）は山頂直下となります。標高 2000m では高木層/亜高木層の樹木は全くなく、低木層もチングルマを除けば、ほぼゼロであり、草本層中心の雪田植生です。

【確認された植生】

1. 植生の種数

〈小笠南面（標高 1950m）〉

小笠	調査日	確認された種数	総本数
1回	2010/9/11	8種	183
2回	2011/8/6	12種	492
3回	2013/8/10	12種	454
4回	2015/7/12	15種	584
5回	2017/8/11	17種	1145
平均		12.8種	571本

1m^2 枠内で確認された種数は各回平均 12.8 種であり、5 回調査の総種数は 26 種。

〈笠ヶ岳東肩（標高 2000m）〉

笠ヶ岳	調査日	確認された種数	総本数
1回	2010/9/11	14種	208
2回	2011/8/6	19種	489
3回	2013/8/10	17種	525
4回	2015/7/12	15種	254
5回	2017/8/11	18種	498
平均		16.6種	395本

1m^2 の枠内で確認された種数は各回平均 16.6 種であり、総種数は 37 種に及びます。

植物群落	小笠南面	笠ヶ岳東肩
	雪田植生	雪田植生
標高1950m-小笠南面 標高2000m-笠ヶ岳東肩	イワイチョウ-ヌマガヤ群落	イワイチョウ-ヌマガヤ群落
調査期間（年）2010-2011-2013-2015-2017	7/12～9/11	7/12～9/11
Altitude(m)-標高	1950m	2000m
Slop degree-傾斜度	40～45度	40～45度
Quadrat size(MXM)	1m^2	1m^2
(調査1回あたり)出現した種数（平均）	12.8種	16.6種
全調査で出現した種数	26種	37種

2.各回調査の主要種上位 3 種

1m^2 に生息する種ごとに、生息する本数をカウントしてみました。二つの調査地点の優占種上位 3 種で全植生の 6 割前後を占めることが分かりました。

・上位 3 優占種　＜小笠南面/笠ヶ岳東肩＞

調査	小笠南面-上位3種			占有率
1回	チングルマ	コイワカガミ	イワショウブ	73.80%
2回	コイワカガミ	ヒメノガリヤス	チングルマ	68.30%
3回	コイワカガミ	モウセンゴケ	チングルマ	68.10%
4回	チングルマ	コイワカガミ	モウセンゴケ	67.50%
5回	キンコウカ	モウセンゴケ	ミツバオーレン	72.50%

調査	笠ヶ岳東肩-上位3種			占有率
1回	イワイチョウ	キンコウカ	チングルマ	53.80%
2回	コイワカガミ	ヒメノガリヤス	イワイチョウ	60.3&
3回	ヒメノガリヤス	コイワカガミ	タテヤマリンドウ	54.30%
4回	キンコウカ	チングルマ	タカネニガナ	57.50%
5回	キンコウカ	ハナニガナ	イワイチョウ	72.60%

【笠ヶ岳の自然】

笠ヶ岳の南東面まで国立公園内であり、西面は至仏山・笠ヶ岳西面環境保全地域として群馬県が指定管理しています。蛇紋岩が至仏山から笠ヶ岳の稜線部にかなり厚く分布し、気候は日本海型気候の多雪地域（至仏山と同程度の 3m以上)。植生相も蛇紋岩地、北方系などであり、生息環境基盤も至仏山とほぼ同じと位置付けられています。

【植生と気象/積雪の関係】

雪田植生の成長は、積雪量および気温にかなり左右されるために調査該当年の積雪量を検証しました。近隣（笠ヶ岳から 15ｋm）低地となる尾瀬沼気象観測所（標高 1660m）のデータによれば調査年は極端な多雪や少雪はではなかったと推察

できます。しかしながら笠ヶ岳の南東斜面（標高2000m）では卓越風の風下にあたるため、尾瀬沼より吹き溜まり易い所と言えると思います。

尾瀬沼	調査年	最大積雪cm	消雪日
第1回	2010	269	5月31日
第2回	2011	274	5月26日
第3回	2013	267	5月22日
第4回	2015	344	5月21日
第5回	2017	287	5月24日

尾瀬沼	積雪深
15年平均（2003～2017）	276cm
63年平均（1955～2017）	295cm

【なぜ同じ個所なのに、多様な植生が生えるか】

斜面に積った雪は，ゆっくりとした速度ではありますが、常に地表面上を下方へとすべっていきます。この力を**積雪グライド**と言います。登山道が大きくえぐられたり、階段状の木道の杭まで変形、損傷したり、道路フェンスやワィヤーロープでさえ大きく曲がったり切断されるほどの力です。

至仏山環境専門委員（小泉武栄委員長）による至仏山登山道のグライド計測調査では、傾斜 30 度で 12ｃm/年の移動を確認しています。積雪の重さは気温により変化しますが、春先の時期で 500kg/1m³ 程度と推定されています。1 立方mで 500kg としても、最低でも 3m以上の積雪が生みだす下方へ引っ張る力は恐ろしいほどの力量となります。残雪期は水分が多く、その水分は凝集力でつながっています。一つの斜面では何十万トン単位の重量となり、斜面の土壌を巻き込みながら下方へずり落ちています。

私たちが隔年で訪れる観測地点には毎年新たな岩や土砂が上方から流れ、堆積されていると考えられます。つまり斜面の土壌は一定でなく、毎年流動し、土壌が入れ変わっているわけです。この土壌の流動化は、積雪によるグライドと考えられます。

この積雪グライドによる土壌入れ替え作用が起因となり、種の多様性を生んでいる可能性が高いと思われます。過去にこの斜面に種子散布がなされ、その種子はシードバンクとして土壌中に眠っていたわけですが、積雪グライドによる土壌の攪乱をきっかけに、発芽のチャンスが生じ、成長したものと推察しています。雪田植生は、気象現象や積雪グライドを巧みに利用しながら、種の存続を成し遂げているのでしょう。

【まとめ】

笠ヶ岳周辺は多様な植生に支えられ、またその密度も濃くまさに「尾瀬らしい尾瀬」と呼べるところです。高山植物が極めて品質の良い（質および植物の多様性である量）状態で残された自然です。調査年は違うものの、私たちの調査でも十分確認できました。2 ヶ月間（7 月上旬～9 月上旬）で確認できた植物種だけで 1m枠内の同箇所で 37 種にも及びます。まさに生物多様性そのものと感じます。

アヤメ平や竜宮の荒廃を先例として出すまでもなく、同じ轍を踏まぬよう丁寧に、慎重に扱わねば、瞬時にして破壊されてしまう、残された極上品級の自然と考えます。

＜写真：笠ヶ岳山頂のベニヒカゲ（準絶滅危惧種）＞

この地区の地種は保護地区と指定はされていますが、十分な保全がなされているとは言えません。国立公園尾瀬を拡張し、きちんと特別保護地区として『格上げ指定』を行い、法的な支えを強化し、管理すべき貴重な箇所と強く感じます。トレイルランなどの破壊行為は即刻禁止すべきです。

なおこの報告文は会報紙面の都合上＜サマリー

編＞であり、＜本報告文＞は確認された種のリストの添付資料、参考資料などを含め当会の HP に掲載しますので、ご覧ください。

■ご報告-群馬側の外来植物調査 2017

＜サマリー編＞

群馬側担当理事　小鮒　守
理事　大山昌克

初めて尾瀬地域の本格的な植生調査が行われたのが第一次尾瀬学術調査です。原　寛・水島正美両先生を中心に調査され 1954 年に整理されました。当時に確認された植生は約 690 種、外来種はオオバコやスズメノカタビラなど 7 種が確認されました。その後群馬県および福島県の尾瀬保護専門委員や専門家により、植生調査および外来種調査は引き続き行われています。外来種の侵入は、意図的に運びこまれたものと意図せず入り込んだものがありますが、植生の進出としては極めて短期間に入り込んでいます。

運搬用ロープなどに付着した種子が多く入り込む「意図しない外来種侵入」も、入山者の激増とともに増えたと考えられます。

大量のハイカーによって踏み固められた自然植生を欠く裸地化された土壌は、外来種にとって最高の立地となります。特に山小屋周辺は最盛期には年間 60 万人以上のし尿や風呂の排水まで湿原や湖沼に流され、栄養過多の状態となっていました。

＜環境省指定：重点対策外来種-オランダガラシ（花）＞

1972 年尾瀬専門委員の外来種調査では 34 種、1976 年では福島県側の外来種として 29 種があげられています。1979 年には長蔵小屋周辺だけでエゾノギシギシが 612 本確認との報告もあります。1981 年山の鼻地区中心の調査では、20 科 39 種が確認されています。文献には過去より尾瀬の外来種侵入に対し、対応策を急ぐように警告がたびたびなされていました。しかしながらオランダガラシを代表格として、今ではもう手の施しようがないほど尾瀬の湿原奥深くまで繁茂している外来種もあります。

【外来種はどのくらい侵入？】

尾瀬の植生、特に高山植物などは図鑑などで詳細に見ることが可能ですが、外来種となると、何が外来種なのか、どの程度入り込んでいるのか、なかなか見えづらいのが現状です。

＜環境省指定：総合対策-外来種エゾノギシギシ＞

第一次学術調査以来、尾瀬保護専門委員の方々から報告された植生報告書＜尾瀬の自然保護（群馬県）や尾瀬の保護と復元（福島県）＞や環境省管理報告書などを利用し抽出、リスト化を試みました。約 60 年間にわたる専門委員による各調査で見えた外来種と指摘された種数は、延べ 131 種に及びます。

■国産外来種ワースト 3.

・過去 30 年以上にわたり大規模に繁殖

オオバコ、スズメノカタビラ、イヌタデ（アカマンマ）

■海外外来種ワースト 6.

・過去 30 年以上にわたり大規模に繁茂

ヒメジョオン（北米）、シロツメクサ（欧）、エゾノギシギシ（欧）、オランダガラシ（クレソン）

（欧）、コカナダモ（北米）、カモガヤ（欧/アジア）、クサイ（北米）、

【外来種は減らせるのか】

尾瀬保護専門委員の指摘によれば山の鼻地区と並んで、外来種が繁茂している個所は、尾瀬沼集団施設と下田代集団施設周辺です。

現在の尾瀬沼周辺は 2 台のショベルカーが騒音とともに土砂の掘り返しなどの操業をしています。それは今回で 3 回目の尾瀬沼ビジターセンター新築工事のためです。2020 年供用開始予定の集団施設改変に伴う工事は、大胆に湖畔の土壌攪乱、裸地化を行っています。

新しい建物でお客様を迎えたいのでしょうが、湿原への土砂、濁水流入の懸念および外来種も相当数が侵入の上、繁茂が危惧されます。特に尾瀬沼界隈は外来種問題に対し難問山積の状態です。北米産のコカナダモの群落が再び現れました。引き続き行政は見て見ぬふりが続くのでしょうか？減らすどころではなく、着々と外来種は増加し、在来種にとっては大きな脅威がまだまだ続きます。

【尾瀬の外来植物広がる】

第 4 次尾瀬総合学術調査の初年度調査報告会が 2018 年 1 月 10 日に都内で開かれました。『尾瀬の外来植物広がる』は 2018 年 1 月 11 日付け読売新聞の見出しです。

2018/1/11 福島民報など新聞各紙（要旨）によれば、『尾瀬国立公園の特別保護地区内に、ヨーロッパ原産の多年草「コテングクワガタ」などの外来植物が広がっている。今回の調査で、全ての山小屋周辺で生育が確認され、株数は在来種であるテングクワガタの 10 倍以上あり、一部では二つの種が交雑していた。コテングクワガタの場合、ヘリコプターの基地がある大清水（片品村）や御池（檜枝岐村）に群落があった。』

＜写真：コテングクワガタ-知床財団 HP より＞

欧州産の外来種「コテングクワガタ」の侵入は、すべての山小屋周辺にまで広がりました。御池を代表とする尾瀬の入山口には、多数の外来種群落があり、外来種の供給基地となっています。

【当会の調査】

私たちは 2017 年秋（9/30）調査では、群馬側の鳩待峠と山の鼻周辺で外来種調査を行い、確認された外来種は 30 種を超えました。尾瀬保護専門委員による調査データでは一度も登場していない「ドクダミ」の群落まで新発見（？）しました。多くの山小屋周辺は外来種の研究見本園と化しています。

なおこの報告文は会報紙面の都合上＜サマリー編＞であり、＜本報告文＞は外来種リストや添付資料、参考資料を含め当会の HP に掲載しますので、ご覧ください。

事務局だより

○（公財）緑の地球防衛基金設立 35 周年記念講演および当会-活動報告会開催

平成 29 年 11 月 7 日、（公財）緑の地球防衛基金の設立 35 周年、公益財団 5 周年記念講演が、中国陝西省からの代表団を含め 100 名近くの参加者を迎え開催されました。「記念講演」では、中国陝西省楡林市横山区林業局の邵勝寛（しょう　しょうかん）局長から、「楡林市における横山区東陽山友好植林プロジェクトの進展報告」のご講演、基金からは「タンザニアモデル造林事業 25 年の歩み」の報告が行われました。各助成団体への助成金の贈呈式の後、当会磯部理事長から「尾瀬の保護活動と最近のシカ問題動向」と題して活動報告を行いました。

○2017 年度-第 2 回理事会開催

2017 年 1 月 21 日（日）郡山市内において 11 時より全理事参加のもと、第 2 回理事会が開催されました。議題は次年度の活動計画案の協議です。総会、入山指導、調査活動、尾瀬アカデミーなど各種事業の日程調整などが話し合われました。

◆2018 活動（案）

4月	7（土）	総会（13：10～15：20） 特別講演（15：30～16：45）	
5月	3（木）～4（金）	指導員研修：大江湿原の残雪調査	福島
5月	19（土）～20（日）	入山指導/バス添乗解説/尾瀬沼周辺-自然観察	福島
6月	2（土）	入山指導/外来種調査/至仏山携帯トイレアンケート/アヤメ平観察	群馬
6月	8（金）	尾瀬環境調査（外来植物調査/自然観察）	群馬
6月	9（土）～10（日）	入山指導/バス添乗解説/尾瀬自然ガイド実践/ツバメオモト生育調査	福島
6月	30（土）	入山指導/外来種調査/至仏山携帯トイレアンケート/チョウの生態観察	群馬

・5 月 3～4 日の残雪調査からフィールドの活動が始まります。尾瀬は湿原を中心に成立しています。雪は植物を乾燥から守り、雪解け水が成長を促し、生育に極めて重要なものです。雪は例年よりはやや多めで推移しています（2 月上旬時点）。3 月上旬に最大値を付けることが多く今年の最大積雪はどの位になるのでしょうか。

積雪状況-2018/2/5現在	
尾瀬沼	228cm
鳩待峠	180cm
檜枝岐	180cm
戸倉	149cm
気象庁＆国土交通省データ	

・福島側第 1 回活動は 5/19～20 日を予定、群馬側第 1 回活動は、6/2 日を予定です

・尾瀬アカデミー（インタープリター養成講座）は群馬側（7/7～8）、福島側（7/14～15）、合同研修（10/13～14）の日程です。ぜひご友人のご紹介をお願いします。

○「通常総会」日程

通常総会の日程が決まりました。

日時：2018 年（平成 30）4 月 7 日（土）
13：10～17：00

会場：大宮ソニックシティビル　902 号室

編集後記

昨年 5 月に尾瀬沼を訪れたとき、残雪の中ショベルカー 2 台が稼働して、騒音とともに土砂の掘り起しをやっていた。これは 3 回目の建て替えとなる「尾瀬沼ビジターセンター」工事であり、今年は本格化する。2020 年供用の新しい「箱もの」が、観光客や外国人誘致策のようだ。廃材や建築資材運搬は御池からヘリ空輸で繰り返される。湿原や湖沼への土砂、濁水の流出、外来植物の新たなる侵入が懸念される。

尾瀬沼の水質悪化が止まらない。環境省は毎年末に全国の湖沼 187 ヶ所の水質状況を発表している。尾瀬沼の水質 COD 値は 2014 年 3.8、→2015 年 4.0、→最新 2016 年 4.4 と、ついに全国のワースト 35 位。どこまで悪化したら対策をされるのであろうか。誘致策も結構だが保護策もお願いしたいものだ。また環境省指定-重点対策外来種のコカナダモの群落が復活してきた。条件次第では大発生による在来種（ヒロハノエビモやセンニンモなど）への影響が危惧されている。加えてヨーロッパ産外来種のコテングクワガタはすべての山小屋周辺への侵入が確認された。

本年 8 月に「改訂尾瀬ビジョン」が公表されると聞く。国宝級と言われる尾瀬の自然保全が「最優先」と謳いあげるビジョンを期待したい。　（大山）

NPO 法人
尾瀬自然保護ネットワーク
Vol.20 No.4　2018 年 2 月 20 日
発行人　：磯部　義孝
編集担当：大山　昌克
Web 担当：鈴木　誠一
■本部事務所（事務局）
〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町旭町 19 円谷様方
電話/FAX　0248-94-5003
info@oze-net.com<info@oze-net.com
■群馬支部
〒371-0846 前橋市元総社町 2－21－12 小鮒様方
電話/027-251-1089
http://www.oze-net.com/